

上部更新統横須賀層の貝化石標本

List of the Fossil Mollusca from the Upper Pleistocene Yokosuka Formation of Kanagawa Prefecture, Central Japan

奥村 清¹⁾・末永葉子²⁾・木下鐵雄²⁾
川名ひろみ²⁾・林 義人³⁾・田口公則⁴⁾

Kiyoshi OKUMURA¹⁾, Yoko SUENAGA²⁾, Tetsuo KINOSHITA²⁾
Hiromi KAWANA²⁾, Yoshito HAYASHI³⁾ & Kiminori TAGUCHI⁴⁾

Key words: molluscan fossil, Pleistocene, Yokosuka Formation, Otsu Member

1. はじめに

著者の木下と林は 1977 年ころ、当時大規模に宅地開発・造成が進められていた横須賀市小原台周辺およびその西方の諸地域から多数の貝化石を採集した。それを基にした研究の一部は木下・林 (1978) によって公表されたが、当時未整理であった化石を加え改めて資料の再検討を行った。その結果、10 地点の産地から 362 種、採集化石個体数は 1 万 7500 点以上に及ぶ資料として整理された。これらの化石産地いずれもが現在ではほとんど消滅しており、採集が難しい微小貝等を多く含む本資料は非常に貴重である。今回、横須賀層産の貝化石標本の整理が終了したので資料として公表する。

2. 地質概説および研究史

標本が採集された三浦半島東部、横須賀市小原台と周辺地域には、基盤に第三系三浦層群が分布し、それを第四系横須賀層が不整合に被り分布している。横須賀層は大津砂部層と走水砂礫部層に区分される。なお、当地域

については、蟹江ほか (1977) の層序区分と大きく変わるところがないので本報告ではそれを踏襲する。また、地層名については江藤ほか (1998) を用いることにし、蟹江ほか (1977) の横須賀累層を横須賀層に、大津砂泥層を大津砂泥部層としてあつかう。本報告の貝化石資料は全て大津砂泥部層から採集されたものである。

当地域における最初の化石報告は、Naumann (1881) による横須賀市白仙山産の“ナウマンゾウ”についてである。つづいて、吉原 (1902) が地質および古生物に関して研究を行った。山川 (1910) は大津付近の含化石層の研究を行い、これを大津層と呼んだ。その後、Yokoyama (1920) は、本地域の第三系および第四系の軟体動物について詳細な研究を行い、その成果を公にした。山川 (1910)、青木 (1925)、池辺 (1931)、鈴木 (1932) は、軟体動物、有孔虫化石の研究および層序学的研究によって大津層を第四系とした。戦後、関東ローム研究グループ (1965) は、大津層が下末吉ローム層に覆われていることから、屏風ヶ浦層に対比されると考えた。走水団体研究グループ (1965) は、本地域に分布する海成第四紀層を横須賀累層とし、これを下位から堀の内基底礫岩層、大津貝層、馬堀砂岩層、走水礫層の 4 部層に細区分した。大津層の堆積環境について、軟体動物化石、有孔虫化石・花粉化石の研究から、池辺 (1931) は南方に開いた海湾を考えたのに対して、走水団体研究グループ (1965) は外洋の寒・暖流が流れ込む内湾の海域を考えた。

蟹江ほか (1977) は、走水団体研究グループ (1965) の堀の内基底礫岩層、大津貝層、馬堀砂岩層を同時異相とみなし、これらを一括して大津砂泥層とし、軟体動物化石について保存のよいものはやや沖合に生息する種が多いことから外洋に面する陸棚斜面の環境を予想した。木下・林 (1978) は、大津砂泥層から 400 種の貝化石を見出し多頻度種 49 種をリスト報告するとともに、貝化

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館外来研究員
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Visiting Research Fellow of Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

²⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館古生物ボランティア
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Volunteer of Paleontology Group, Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan

³⁾ 〒243-0207 神奈川県厚木市まつかげ台
Matsukage-dai, Atsugi, Kanagawa, 243-0207, Japan

⁴⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
tagu@nh.kanagawa-museum.jp

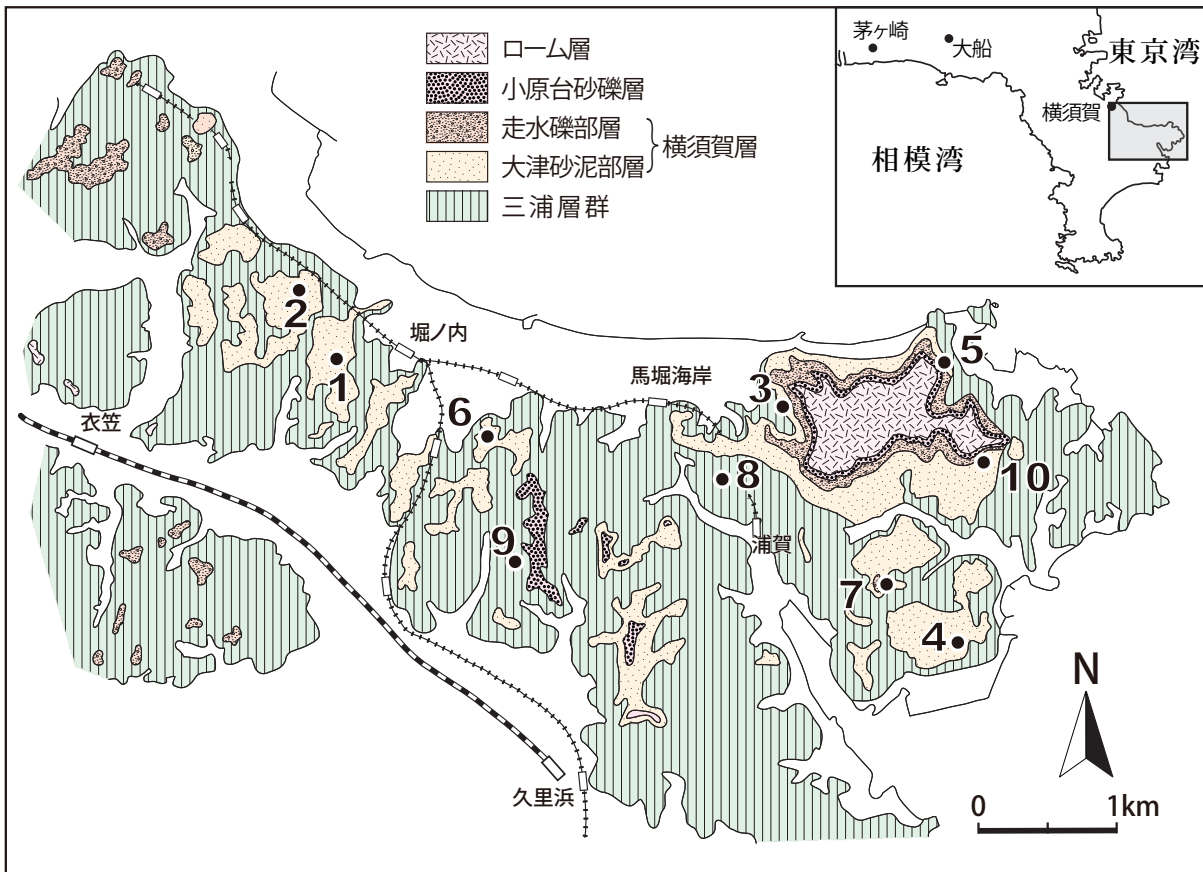


図 1. 横須賀層分布域の地質および化石産出地点 (木下・林, 1978 を修正).

石群集から堆積環境の考察を行った。さらに蟹江ほか (1994) は、大津砂泥層から 100 余種の貝化石を報告した。嘉山 (1969) は走水礫層の礫の種類や大きさなどからその起源について検討を加え、江藤ほか (2001) は周辺に分布している礫層との関連について考察を行った。

大津砂泥層は、挟在する TAu-12 テフラから $147,000 \pm 9,000$ 年と $143,000 \pm 11,000$ 年のフィッション・トラック年代値が得られている (鈴木, 1976) ほか、非造礁性単体サンゴの $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ 年代 $100,000 \pm 3,000$ 年 (大村ほか, 1984)、貝化石の ESR 年代 138,000 年 (大村・桜本, 1986) の測定値があり、これらの数値はいずれも下末吉期の年代を示している。

3. 横須賀層産貝化石資料

(1) 化石産地

横須賀層産貝化石は、図 1 に示す 10 地点において採集された。この 10 地点の産地および化石産状については、木下・林 (1978) で報告されている。同内容を次に示す。なお、化石産地の記載は 1978 年ころのもので、住宅地になったり、コンクリートが吹き付けられる等、現在はいずれも直接観察することはできない。

〔産地 1〕三春

京浜急行堀ノ内駅南西約 400 m。シルトと褐色をおびた淘汰の悪い中粒砂からなる。化石は下位にある三浦層群との不整合面直上に堆積しているものと、不整合面から上方にやや離れて、水平方向に並んで堆積しているものがある。不整合面に沿うものは、雑然と堆積し、貝

殻の配列に方向性は持たない。双方とも化石は密集し、殻表の細かな彫刻は残っている。二枚貝は合殻したものもあり、保存状態はよい。化石を含む地層 (以下、含化石層という。) の厚さは約 6 m である。含化石層の基底の海拔高度 (以下、単に高度とする) は 18 m。

〔産地 2〕富士見

京浜急行安浦駅南東約 300 m、京浜急行線路に沿う大きな露頭。三浦層群由来のシルト礫 (径 3 cm) を含む淘汰の悪い砂混じりシルトからなる。化石は吹き寄せ状に密集。雑然と堆積し、方向性はない。小型のものが多く、破損しているものもあるが、殻表の彫刻が摩滅したものは少ない。高度 20 m。

〔産地 3〕馬堀

馬堀中学校東、防衛大へ上る坂道の両側。火砕物を多く含む淘汰の悪い灰白色の中粒砂からなる。化石は吹き寄せ状に堆積し、化石の配列に方向性はない。合殻したものはほとんどないが、殻の保存状態は比較的よい。化石は不整合面直上からその上方 6 m までの地層に含まれ、下部ほど化石密度は高い。高度 20 m。

〔産地 4〕鴨居

鴨居二丁目団地の南東の端。シルトと小円礫 (中・古生層由来) まじりの青灰色中粒砂からなり、硬くしまっている。化石は不整合面上約 1 m のところにあり、吹き寄せ状に密集し、密集帯を離れるに従って化石密度は急速に小さくなる。小型化石が多い。厚い殻は完全な形を

しているが、薄い殻は破損したものがある。含化石層の厚さは約 1 m。高度 30 m。

〔産地 5〕 円照寺

走水港西 200 m。円照寺の東側にある山道の両側。含化石層は下位のものとして上位のものに分かれる。下位のは未固結で黄灰色シルトから、上位のものは青灰色の砂と小礫（中・古生層由来）からなる。下位の含化石層の貝は *Crassostrea gigas* 一種のみである。殻は水平方向に並び、多くは合殻して死後あまり移動していないものと思われる。含化石層の厚さは 90 cm。上位の化石は吹き寄せ状に密集している。貝化石がラミナに沿って配列しているところもある。化石は概していちじるしく破損している。上位の含化石層の厚さは約 30 cm。高度 30 m である。

〔産地 6〕 信誠寺

大津四丁目信誠寺墓地の隅。黒味を帯びた貝殻片まじりの中粒砂からなり、不整合面直上にシルト礫（三浦層群由来、大きいものは直径 30 cm）がある。化石は吹き寄せ状に集まっているが、破損したものは少なく、遠くから運搬されてきた可能性は小さい。殻表の彫刻は、摩滅されずに残っている。穿孔貝が多く、穿孔巢の中にそのまま保存されている貝殻が多く認められる。高度 40 m。

〔産地 7〕 二葉

浦賀港東方 500 m。基盤直上は、円礫（三浦層群由来。大きいものは径 30 cm）と黄色に風化した小礫（中・古生層由来）と砂とからなるが、礫の堆積には方向性はない。不整合面から上方 2 m まではシルトの円礫が混じる。白色の火山灰層があり、ラミナが発達している。化石は吹き寄せ状に密集しているところとまったく化石を含んでいないところが断続している。小型の化石は完全なものも多く、大型のものは破損している。含化石層は不整合面直上から始まり、厚さは 11 m。高度 45 m。

〔産地 8〕 浦上台

浦賀一丁目団地中央にある露頭。黄褐色の中粒砂からなる。吹き寄せ状に密集している。大型のものには、破損したものが多く、小型のものは完全なものが多い。露頭はアパートの庭で、付近に三浦層群が所々現れている。高度 45 m。

〔産地 9〕 池田

池田三丁目。大塚古墳遺跡北方 400 m。不整合面の凹凸は著しく、基底礫層はシルト岩の角礫からなり、まれに緑色の小礫が混じる。化石は主として基底礫層中に吹き寄せ状に密集している。その上方は、貝殻片交じりのシルト質砂で、さらにその上は塊状の中粒砂に変わる。ここにも化石が散在している。二枚貝の化石は合殻したものが多く、破損したものは少ない。彫刻は摩滅されずに残っている。遠方から運搬されてきた可能性は少ない。含化石層の厚さは 6 m。高度 50 m。

〔産地 10〕 小原台

小原台東、防衛大運動場の崖下の小さな露頭。未固結の青灰色砂からなる。化石産出地点から水平方向に 10 ~ 20 m 離れたところに三浦層群が見られることから、不整合面に近い層準と思われる。化石は吹き寄せ状に密集している。高度 50 m。

(2) 貝化石標本リストについて

横須賀層大津砂泥部層の上記 10 地点の貝化石産地および産出種について、産出頻度を併せて標本リスト（付表）に示した。学名および和名については、肥後・後藤（1993）に従ったが、掲載されていない種については一般に用いられている呼称を用いた。表の a、m、f 等は産出化石の多少を表す。すなわち、v: very abundant（非常に多い、11 個体以上）、a: abundant（多い、8-10 個体）、m: medium（中程度、4-7 個体）、f: few（少ない、2-3 個体）、r: rare（稀、1 個体）である。

なお、木下・林（1978）で示した多頻度種の表と本報告の標本リストでは整合しない箇所がある。これは当時の種名変更、標本欠如、未整理標本の追加等の変更による結果である。

(3) 標本の内容

横須賀層 10 地点の産地から採集した貝化石のうち、種を特定でき整理されたものは 362 種である。採集個体数は 1 万 7500 個以上に及ぶ。これらの種のうち、化石産地 10 地点全てから産出したものは次の 5 種である。

Lirularia (Lirularia) pygmaea ヒノデシタダミ
Homalopoma amussitatum エゾザンショウガイ（三春産標本は未定）
Mitrella bicincta ムギガイ
Anomya chinensis ナミマガシワ
Anisocorbula venusta クチベニデ

また、化石産地毎に、1 種あたり少なくとも 100 個体産出した種および化石産地は次のとおりである。（ ）内は化石産地。

Enida japonica ハグルマシタダミ（馬堀）
Lirularia (Lirularia) pygmaea ヒノデシタダミ（富士見、円照寺）
Homalopoma granuliferum ワニカワザンショウガイ（鴨居）
Clathrofenella reticulata オガサワラモツボ（三春）
Mitrella bicincta ムギガイ（三春、富士見）
Sacella gordonis ゴルドンソデガイ（浦上台）
Arca boucardi コベルトフネガイ（富士見、鴨居、信誠寺、二葉）
Arcopsis symmetrica ミミエガイ（富士見）
Limopsis tokaiensis オオシラスナガイ（馬堀、鴨居）
Ostea futamiensis クロヒメガキ（富士見）
Crassostrea gigas マガキ（円照寺）
Indocrassatella oblongata ワタゾコモシオガイ（鴨居）
Megacardita ferruginosa フミガイ（馬堀）
Cyclocardia ferruginea クロマルフミガイ（鴨居、二葉）
Alvenius ojanus ケシトリガイ（富士見、池田）

Cartitellopsis toneana ケシフミガイ (池田)
Veremolpa mindanensis アデヤカヒメカノコアサリ (池田)
Anisocorbula venusta クチベニデ (三春、富士見、馬堀、
 鴨居、円照寺、信誠寺、二葉、浦上台、池田)
Barnea (Anchomasa) manilensis ニオガイ (三春)

引用文献

- 青木廉二郎, 1925. 三浦半島の海岸に就きて. 地球, **3**: 101-111.
 江藤哲人・矢崎清貫・ト部厚志・磯部一洋, 横須賀地域の地質.
 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 128p.
 江藤哲人・松田恵里・伊藤憲和, 2001. 上総層群長浜砂礫層 (房総
 半島) および相模層群走水層 (三浦半島) の礫種組成と供給
 源. 堆積学研究, **53**: 17-27.
 肥後俊一・後藤芳央, 1993. 日本及び周辺地域産軟体動物総目録.
 v+3+23+693+13+148+ii pp. エル貝類出版局, 八尾.
 走水団体研究グループ, 1965. 三浦半島小原台付近の第四系.
 地球科学, **80**, 1-11.
 池辺展生, 1931. 三浦半島南部の洪積統に就いて. 武蔵野高校
 校友会誌, (16): 9-48.
 蟹江康光・新井重三・長沼幸男・大越 章・長田敏明・高橋輝雄, 1977.
 三浦半島東部, 横須賀付近の第四系. 地質学雑誌, **83**: 157-168.
 蟹江康光・横山芳春・渡辺政美・浅見茂雄, 1994. 横須賀市馬堀町
 の更新世横須賀累層大津層産軟体動物化石リスト. 横須賀市
 博研究報告 (自然), (42): 83-84.
 関東ローム研究グループ, 1965. 関東ローム - その起源と性状 -
 横浜南部および三浦半島, pp. 96-102, 築地書館, 東京.
 嘉山三千男, 1969. 三浦半島小原台周辺の第四系の堆積環境について.
 神奈川県教育センター長期研修員研究集録, (5): 73-78.
 木下鐵雄・林 義人, 1978. 横須賀累層の軟体動物化石. 神奈川県
 教育センター長期研修員研究集録, (13): 27-36.
 Naumann, Edmund, 1881. Ueber Japanische Elephanten der Vorzeit.
Paleontographica, **28**: 1-40., pls. I-VII.
 大村明雄・大村一夫・桜本勇治・辻 喜弘, 1984. 南関東上部更新統
 産サンゴの 230Th/234U 年代. 第四紀研究, **23**: 31-35.
 大村一夫・桜本勇治, 1986. ERS 年代測定法による下末吉期の貝化石
 の年代. 北村信教授記念地質学論文集, 331-336.
 鈴木好一, 1932. 神奈川県厚木町北方の鮮新統 (其一), (其二).
 地質学雑誌, **39**: 46-70, 97-132.
 鈴木正男, 1976. 過去をさぐる科学 - 年代測定のすべて - . 234p,
 講談社.
 山川戈登, 1910. 三浦半島に現はれたる化石含有層の或ものに就て.
 地質学雑誌, **17**(196): 37-41.
 Yokoyama M., 1920. Fossils from the Miura Peninsula and its immediate north.
Jour. Coll. Sci., Imp. Univ. Tokyo, **39**: 1-193, pls. 1-20.
 吉原重康, 1902. 東京以南三浦半島地質論. 地質学雑誌,
9: 1-20, 76-84.

(受付 2008 年 11 月 30 日 ; 受理 2009 年 1 月 22 日)

付表. 横須賀層大津砂泥部層産貝化石 (その1)

産出頻度 v: very abundant (非常に多い, 11 個体以上); a: abundant (多い, 8-10 個体); m: medium (中程度, 4-7 個体);
f: few (少ない, 2-3 個体); r: rare (稀, 1 個体)

	学名	和名	Loc.1	Loc.2	Loc.3	Loc.4	Loc.5	Loc.6	Loc.7	Loc.8	Loc.9	Loc.10
			三春	富士見	馬掘	鴨居	円照寺	信誠寺	二葉	浦上台	池田	小原台
1	<i>Emarginula crassicosata</i>	スソキレガイ	r	r	.	.	.	r
2	<i>Emarginula fragilis</i>	ハブタエスソキレ	.	r	r	.
3	<i>Emarginella incisula</i>	キレザラ	r
4	<i>Tugali decussata</i>	シロスソカケガイ	f	.	f	.	.	f
5	<i>Punctrella (Punctrella) nobilis</i>	コウダカスカシガイ	r	r	v	v
6	<i>Punctrella (Punctrella) fastigiata</i>	エンスイスカシガイ	.	.	.	r
7	<i>Montfortula pulchra picta</i>	スソカケガイ	r	r	.	r	.
8	<i>Macroschisma sinense</i>	スカシガイ	r
9	<i>Cellana grata</i>	ベッコウザラ	r
10	<i>Cellana nigrolineata</i>	マツバガイ	f
11	<i>Patelloida saccharina lanx</i>	ウノアシ	r	.	.
12	<i>Patelloida (Asteracmea) pygmaea</i>	ヒメコザラ	.	r	r	.	.
13	<i>Collisella (Conoidacmea) heroldi</i>	コガモガイ	r	r	.	.	.
14	<i>Acmea (Niveotectura) pallida</i>	コキノカサ	r	r	r
15	<i>Lissotesta sobrinum</i>	イトコシタダミ	a	r	v	r	.	r	.	f	a	.
16	<i>Daronia yokoyamai</i>	-	r	.	.	.
17	<i>Liotina (Liotinaria) semiclastratula</i>	ヒメカタベ	r	f	.	.	r	a	.	f	v	.
18	<i>Lirularia (Lirularia) pygmaea</i>	ヒノデシタダミ	a	v	r	m	v	v	a	a	v	a
19	<i>Granata lyrata</i>	アシヤガイ	a	v	.	.	f	r	f	.	a	.
20	<i>Euchelus (Vaceuchelus) instrictus</i>	カゴサンショウガイモドキ	.	.	.	f
21	<i>Calliostoma aculeatus</i>	トゲエビス	.	r	.	.	.	r
22	<i>Calliostoma consors</i>	コシタカエビス	.	m	.	m	f	f	a	r	r	.
23	<i>Minolia subangulatus</i>	カドコシダカシタダミ	r	.	.	.
24	<i>Machaeroplax delicata</i>	ウバシタダミ	.	.	.	r	.	.	r	.	.	.
25	<i>Enida japonica</i>	ハグルマシタダミ	.	.	v	v	.	.	v	v	.	.
26	<i>Turcica coreensis</i>	マキアゲエビス	.	r	m	a
27	<i>Cantharidus japonicus</i>	チグサガイ	r	r	.	.	.	r	f	r	m	.
28	<i>Umbonium (Suchium) moniliferum</i>	イボキサゴ	v
29	<i>Umbonium (Suchium) costatum</i>	キサゴ	v
30	<i>Ethminolia stearnsii</i>	キヌシタダミ	r
31	<i>Pseudostomatella papyracea</i>	サラサアシヤガマ	r	.	.	.
32	<i>Turbo (Batillus) cornutus</i>	サザエ	r	f	.	f	.	.
33	<i>Lunella cinerea</i>	オオベソスガイ	r
34	<i>Lunella coronata coreensis</i>	スガイ	r	.	.	r	.	m	.	.	r	.
35	<i>Homalopoma nocturnum</i>	サンショウガイ	a	.	r	.	r
36	<i>Homalopoma amussitatum</i>	エソザンショウ	.	a	v	v	v	v	v	v	v	r
37	<i>Homalopoma granuliferum</i>	ワニカワザンショウ	.	.	v	.	.	.	a	m	.	.
38	<i>Eotricolia megastoma</i>	ベニバイ	f	.	r
39	<i>Tamanella turrita</i>	チャイロタマキビ	v	.	r	r	r	.
40	<i>Littoraria undulata</i>	ホソスジウズラタマキビ	a
41	<i>Stenotis cariniferus</i>	モロハタマキビ	r
42	<i>Littorina (Littorina) brevicula</i>	タマキビ	r	r
43	<i>Littoraria scabra scabra</i>	ウズラタマキビ	a
44	<i>Alvania (Alvania) concinna</i>	タマツボ	r	.
45	<i>Rissoina (Rissoinella) adamsiana</i>	ハスメチョウジガイ	.	.	f	v
46	<i>Costalynia costulata</i>	スジウネリチョウジガイ	a	a	.	.	.	m	.	r	r	.
47	<i>Phosinella fusca</i>	ヌノメチョウジガイ	r
48	<i>Pseudoliotina pulchella</i>	シラキクガイ	a	f
49	<i>Sigaretornus planus</i>	イソマイマイ	.	.	.	f	.	.	.	f	.	.
50	<i>Pygmaerota duplicata</i>	アラウスマキ	m	.	a	.	f	r	f	.	.	.
51	<i>Cerithium kobelti</i>	コベルトカニモリ	a
52	<i>Bittium aleutaceum</i>	ダンダラノミカニモリ	f
53	<i>Bittium glareosum</i>	ノミカニモリ	.	.	.	m	.	r
54	<i>Bittium (Stylidium) yokosukense</i>	イトマキノミカニモリ	.	r	r	.	.	r	a	f	.	.
55	<i>Diala varia</i>	スズメハマツボ	m	r	.	.	.	r	.	.	r	.
56	<i>Clathrofenella reticulata</i>	オガサワラモツボ	v	a	.	.	.	a	.	.	v	.
57	<i>Clathrofenella yamakawai</i>	ヤマカワモツボ	.	.	r
58	<i>Diffalaba picta vitrea</i>	ハリハマツボ	f
59	<i>Eufenella rufocincta</i>	シマモツボ	.	r
60	<i>Eufenella pupoides</i>	モツボ	r
61	<i>Cerithideopsisilla djadjariensis</i>	カワアイ	m
62	<i>Batillaria cumingii</i>	ホソウミニナ	a
63	<i>Siliquaria (Agathirses) cumingi</i>	ミミスガイ	.	r	r	.	.
64	<i>Vermetus tokyoensis</i>	クビタテヘビガイ	v	.	a
65	<i>Serpulorbis (Cladopoda) imbricatus</i>	オオヘビガイ	a	.	.	.	f	f	.	f	f	.
66	<i>Neophipphinoe unicarinata</i>	ネジスキ	.	.	r	r	.	r
67	<i>Amathina yokoyamai</i>	ヨコヤマカセンチドリ	v	m	.	.	.	f	.	.	m	.
68	<i>Calyptraea yokoyamai</i>	カリバカサ	.	.	.	r
69	<i>Bostrycapulus grasvispinosus</i>	クルスガイ	.	.	r	.	.	r	m	.	.	.
70	<i>Sulcerato callosa</i>	ザクロガイ	.	f	.	.	.	r	m	.	.	.
71	<i>Sulcerato pura</i>	マシロザクロ	.	.	r
72	<i>Velutina (Velutina) pusio</i>	ハナストガイ	r	.
73	<i>Euspira yokoyamai</i>	ヨコヤマオリイレシラタマ	.	.	f	f
74	<i>Glossaulax didyma didyma</i>	ツメタガイ	r	.	.
75	<i>Glossaulax didyma hosoyai</i>	ホソヤツメタ	r

付表. 横須賀層大津砂泥部層産貝化石 (その3)

産出頻度 v: very abundant (非常に多い, 11 個体以上) ; a: abundant (多い, 8-10 個体) ; m: medium (中程度, 4-7 個体) ; f: few (少ない, 2-3 個体) ; r: rare (稀, 1 個体)

	学名	和名	Loc.1	Loc.2	Loc.3	Loc.4	Loc.5	Loc.6	Loc.7	Loc.8	Loc.9	Loc.10
			三春	富士見	馬掘	鶴居	田照寺	信誠寺	二葉	浦上台	池田	小原台
151	<i>Mangelia (Guraleus) tabatensis</i>	タバタマンジ	a	r	.	.	.	r
152	<i>Mangelia (Guraleus) tokunagae</i>	ヤセマンジ	.	v	r	.	v
153	<i>Paraclathurella gracilenta</i>	ヌノメツブ	.	r	r	.
154	<i>Philbertia (Pseudodaphnella) leuckarti</i>	クリイロマンジ	r	v	r	.	.	m	m	r	a	.
155	<i>Philbertia (Kermia) tokyoensis</i>	トウキョウコウシツブ	r	.	r	.	.
156	<i>Nodiscula matajiroi</i>	コフシトカケ	f
157	<i>Gyroscala (Pomiscalca) pelplexa</i>	ネジガイ	r	.	.	.
158	<i>Scalardia picturata</i>	-	r	.	.
159	<i>Epitonium scalare</i>	オオイトカケ	f
160	<i>Cinctiscala kazusense</i>	カズサイトカケ	r	.
161	<i>Cinctiscala yamakawai</i>	ヤマカホワイトカケ	.	.	.	r
162	<i>Cinctiscala sagamiense azumanum</i>	アツマイトカケ	r	.	.	a	.	.	a	r	a	.
163	<i>Acutiscala conjunctum</i>	ツツリシノブ	r	.	.
164	<i>Laeviscalca angusta</i>	シノブガイ	.	m	f	.	.	.
165	<i>Depressiscalca aurita</i>	オダマキ	.	.	r	.	.	.	f	.	m	.
166	<i>Inella gigas</i>	カサネキリオレ	.	r
167	<i>Inella japonica</i>	アラレキリオレ	.	v
168	<i>Odostomia (Beslia) bicinctella</i>	フタスジクチキレ	.	.	r	r	.
169	<i>Triphora conspersa</i>	サフランキリオレ	a	v	r	f	r	v	f	r	r	.
170	<i>Triphora multigrata</i>	カズマキキリオレ	.	m	.	.	.	m	.	.	f	.
171	<i>Triphora otsuensis</i>	ホソアラレキリオレ	f	v	r	f	r	.	v	r	.	.
172	<i>Iniforis concors</i>	シロキリオレ	r	.
173	<i>Leucotina diana</i>	コマキモノガイ	r
174	<i>Leucotina sagamiensis</i>	タママキモノ	.	.	r
175	<i>Tiberia (Orinella) pulchella</i>	クチキレガイ	r	.	.
176	<i>Tiberia (Orinella) dunkeri</i>	ダウンケルクチキレ	.	r
177	<i>Odostomia (Odostomia) kizakiensis</i>	-	r	m	.
178	<i>Odostomia (Odostomia) shimosensis</i>	-	r	.	.	.
179	<i>Odostomia (Odostomia) sublimpida</i>	-	.	.	.	r	.	.	.	r	f	.
180	<i>Odostomia (Odostomia) limpida</i>	スククチキレモドキ	r	r	.	f	r
181	<i>Odostomia (Odostomia) suboxia</i>	スズメクチキレモドキ	.	.	.	m	m	.
182	<i>Odostomia (Marginodostomia) hilgendorfi</i>	オリイレクチキレモドキ	.	r	r	r	.	m	r	.	.	.
183	<i>Odostomia (Marginodostomia) subangulata</i>	ホソオリイレクチキレモドキ	.	.	.	f
184	<i>Chrysallida (Chrysallida) shibana</i>	シバヨロイクチキレ	r
185	<i>Chrysallida (Partuliola) marielloides</i>	サキヒダクチキレ	.	.	r	.	.	r
186	<i>Babella caelator</i>	クサズリクチキレ	r	f	r	.	.	f
187	<i>Syrnola (Syrnola) cinnamomea</i>	ゴゲチャビクチキレ	r
188	<i>Syrnola (Iphiana) mira</i>	ミラヌノメクチキレ	r	r	.
189	<i>Agatha brevis</i>	ホソミガクチキレ	r
190	<i>Turbonilla (Turbonilla) pseudocura</i>	-	.	.	.	r	.	r	.	f	.	.
191	<i>Turbonilla (Strioturbonilla) pacifica</i>	タイハイヨウイトカケギリ	.	.	.	r
192	<i>Turbonilla (Pyrgolampros) planicostata</i>	ヒライトカケギリ	r
193	<i>Turbonilla (Pselliogyra) sagamiana</i>	サガミマキミゾイトカケギリ	r	.	.	.	r	.	r	.	.	.
194	<i>Turbonilla (Paramormula) tokunagai</i>	トクナガイトカケギリ	r
195	<i>Turbonilla (Paramormula) paucicostulata</i>	フトスジイトカケギリ	r	.	v
196	<i>Turbonilla (Paramormula) aulica</i>	チャイロイトカケギリ	.	v
197	<i>Turbonilla (Chemnitzia) sematana</i>	セマタイトカケギリ	.	.	r
198	<i>Turbonilla (Chemnitzia) multigrata</i>	シロイトカケギリ	r	v	.	f	r	m	r	f	r	.
199	<i>Turbonilla (Chemnitzia) kidoensis</i>	キドイトカケギリ	r	.
200	<i>Turbonilla (Chemnitzia) imbana</i>	インバイトカケギリ	r
201	<i>Turbonilla (Chemnitzia) approximata</i>	ニヨリイトカケギリ	r	.	.
202	<i>Turbonilla (Asmunda) affectuosa</i>	ヨコスジギリ	.	.	.	r
203	<i>Cingulina (Cingulina) cingulata</i>	ヨコイトカケギリ	r	.	.	m	r	r	r	r	r	.
204	<i>Paracingulina triarata</i>	ミスジヨコイトカケギリ	.	r
205	<i>Kleinella amicalis</i>	ハオリクチキレ	.	.	r	f	.
206	<i>Kleinella neofelix</i>	メグミクチキレ	.	r	r	f	.	.
207	<i>Ringicula (Ringicula) niinoi</i>	ニイノマメウラシマ	f	f	.	.
208	<i>Ringicula (Ringiculina) doliaris</i>	マメウラシマ	.	r	f	.	.	r	.	v	f	.
209	<i>Didontoglossa koyasuensis</i>	コヤスツラガイ	r	.	r	.	.	.
210	<i>Cylichnatys angusta</i>	カミスジカイコガイダマシ	r	r	.
211	<i>Philine vitrea</i>	ウスキセワタ	r
212	<i>Retusa (Decorifer) matsusima</i>	マツシマコメツブガイ	r	.	.	.	r	.	.	.	a	.
213	<i>Retusa (Decorifer) insignis</i>	コメツブガイ	r	r	f	.
214	<i>Retusa (Decorifer) delicatulus</i>	ヒラマキコメツブ	.	.	r
215	<i>Pyrunculus phialus</i>	シリプトカイコガイダマシ	r	r	.
216	<i>Coleophysis succincta</i>	ヘコミツラガイ	r
217	<i>Sulcoretusa minima</i>	ヒメコメツブ	a	.	r
218	<i>Volvulella eburneus</i>	マメヒガイ	r	.	r	.	.	.	r	.	.	.
219	<i>Rhizorus radiolus</i>	アオロリマメヒガイ	.	r	r
220	<i>Rhizorus ovulinus</i>	タマゴマメヒガイ	r	.	r	r
221	<i>Nucula paulula</i>	マメクルミガイ	r	v	.	r	.	m	a	.	.	.
222	<i>Lamellinuclula tokyoensis</i>	ヨセナミクルミガイ	r	.
223	<i>Neilonella japonica</i>	ニッポンハトムギソデガイ	.	.	.	f
224	<i>Nuculana (Thestyloda) yokoyamai</i>	アラボリロウバイ	.	.	f	f	.	.	f	f	.	.
225	<i>Saccella gordonis</i>	ゴルドンソデガイ	.	v	v	.	.	m	m	v	a	.

表 1. 横須賀層大津砂泥部層産貝化石 (その5)

産出頻度 v: very abundant (非常に多い, 11 個体以上); a: abundant (多い, 8-10 個体); m: medium (中程度, 4-7 個体); f: few (少ない, 2-3 個体); r: rare (稀, 1 個体)

	学名	和名	Loc.1 三春	Loc.2 富士見	Loc.3 馬掘	Loc.4 鴨居	Loc.5 円照寺	Loc.6 信誠寺	Loc.7 二葉	Loc.8 浦上台	Loc.9 池田	Loc.10 小原台
301	<i>Tresus keenae</i>	ミルクイガイ	r	.	.	.	r	f	r	r	f	f
302	<i>Coecella chinensis</i>	クチバガイ	r
303	<i>Angulus vestalioides</i>	クモリザクラ	.	a	m	.	.
304	<i>Cadella delta</i>	クサビザラ	.	.	r
305	<i>Cadella lubrica</i>	トバザクラ	r	r	.	r	.
306	<i>Semelangulus tokubei</i>	コメザクラ	.	r	r	.	.	.
307	<i>Semelangulus miyatensis</i>	ニクイロザクラ	r	.	r	.
308	<i>Nitidotellina nitidula</i>	サクラガイ	.	.	m	.	.	.	m	.	.	.
309	<i>Heteromacoma irus</i>	シラトリモドキ	r	f	.	.	.	f
310	<i>Gobreaeus kazusensis</i>	エゾマスホウ	f	.	.	.
311	<i>Hiatula atrata</i>	アケボノキヌタ	r
312	<i>Solecurtus divaricatus</i>	キヌタアゲマキ	r	r	.
313	<i>Solen (Solen) gordonis</i>	アカマテ	f	.	.
314	<i>Solen (Ensisolen) krusensterni</i>	エゾマテ	.	.	r	r	r	.
315	<i>Trapezium (Neotrapezium) liratum</i>	ウネナシトマヤガイ	f
316	<i>Alvenius ojanus</i>	ケシトリガイ	v	v	.	.	.	a	r	v	v	.
317	<i>Periglypta (Periglypta) puerpera</i>	ヌノメガイ	v
318	<i>Veremolpa mindanensis</i>	アデヤカヒメカノコアサリ	.	v	r	m	r	m	.	m	v	.
319	<i>Veremolpa micra</i>	ヒメカノコアサリ	.	v	.	.	r	f	r	.	v	.
320	<i>Callithaca adamsi</i>	エゾヌノメアサリ	a	.
321	<i>Glycydonta marica</i>	カノコアサリ	.	.	r
322	<i>Protothaca (Notochione) jodoensis</i>	オニアサリ	.	v	.	.	f	v	v	a	m	.
323	<i>Protothaca (Novathaca) euglypta</i>	ヌノメアサリ	r
324	<i>Microcirce dilecta</i>	ミジンシラオガイ	a	r	.	.
325	<i>Pitar (Pitarina) sulfreum</i>	イオウハマグリ	.	.	.	f
326	<i>Dosinorbis (Phacosoma) japonicus</i>	カガミガイ	r	.
327	<i>Dosinorbis (Phacosoma) roemeri</i>	アツカガミ	f	.
328	<i>Paphia (Paphia) exarata</i>	ヒメスダレ	a	.
329	<i>Paphia (Paphia) vernicosa</i>	アケガイ	v	.
330	<i>Paphia (Neotapes) undulata</i>	イヨスダレ	m	.
331	<i>Ruditapes variegatus</i>	ヒメアサリ	m	r
332	<i>Gomphina (Gomphina) neastartoides</i>	キタノフキアゲアサリ	v
333	<i>Irus (Irus) ishibashianus</i>	オキナマツカゼ	r	v	r	.	.	a	.	r	.	.
334	<i>Irus (Irus) macrophyllus</i>	ハネマツカゼ	f	f	.	.	r	r	v	r	v	.
335	<i>Irus (Irus) mitis</i>	マツカゼガイ	v	a	r	.	.
336	<i>Saxidomus purpurata</i>	ウチムラサキ	v	.	.	r	m	m	.	r	v	f
337	<i>Callista (Callista) pilsbryi</i>	コマツヤマウスレ	f	r	.	.	.	r
338	<i>Cyclosunetta menstrualis</i>	ワスレガイ	f
339	<i>Petricolirus aequistriatus</i>	シオツガイ	r	r
340	<i>Pseudouris mirabilis</i>	チチミイワホリガイ	r	v	.	.	.	m	m	r	.	.
341	<i>Paramya recurzii</i>	ハマカゼガイ	r	.	m	.
342	<i>Cryptomya busoensis</i>	ヒメマスホウ	r	f	r	r	v	.
343	<i>Anisocorbula venusta</i>	クチベニデ	v	v	v	v	v	v	v	v	v	a
344	<i>Varicorbula rotalis</i>	コダキガイ	f	.	.	.
345	<i>Hiatella orientalis</i>	キヌマトイガイ	v	v	f	f	r	v	m	f	v	.
346	<i>Gastrochaena (Cucurbitula) cymbium</i>	チビツクエガイ	r	.
347	<i>Eufistulana grandis</i>	コツツガイ	r	.	.	.
348	<i>Barnea (Anchomasa) manilensis</i>	ニオガイ	v	m	r	.	.	v	v	a	a	.
349	<i>Aspidopholas yoshimurai</i>	イシゴロモ	.	f	.	.	.	r
350	<i>Penitella kamakurensis</i>	カモメガイ	f	.	.	f	r	a
351	<i>Zirfaea subconstricta</i>	ニオガイモドキ	r	.	.	.
352	<i>Neoxylophaga rikuzenica</i>	キクイガイ	.	r
353	<i>Nettastomella japonica</i>	ヨコヤマズガイ	.	v	.	f	.	a	v	.	r	.
354	<i>Agriodesma navicula</i>	オビクイ	r	.	.	r
355	<i>Myodora fluctuosa</i>	ミツカドカタビラ	m	.	.	.
356	<i>Myodora ikebei</i>	ムカシカタビラ	.	.	.	r	.	.	.	r	.	.
357	<i>Simplicordia trigonata</i>	ミツカドハナシガイ	.	.	.	r
358	<i>Dentalium (Paradentalium) octangulatum</i>	ヤカドツノガイ	f	a	m	m	.	r	f	r	m	.
359	<i>Antalis weinkauffi</i>	ツノガイ	r	.	.	m	.	f	v	v	r	f
360	<i>Antalis tibana</i>	ミガキマルツノ	r
361	<i>Episiphon makiyamai</i>	ロウソクツノガイ	.	v	m	.	.	m	m	a	m	.
362	<i>Entalinopsis intercostata</i>	ユキツノガイ	.	.	r